

## 釧路沖地震による被害状況について

池田町ブドウ・ブドウ酒研究所  
所長 川口 政憲

平成5年1月15日午後8時06分、釧路沖を震源とする地震が発生し(M7.8)釧路から西へ直線距離で約84Kmに位置する当地も大きな被害を受けた。被期微動の後激しい縦揺れが約10秒、その後南北方向の横揺れとなり合計約2分間続いた。

被害は大別して、貯酒タンク、製品(保存用)、半製品の横積みビン、配送センター内のダンボール詰製品の3部門で大きかった。

### 1. 貯酒タンクの状況(写真1)

当所ではグラスラインニグスチール貯酒タンク(主に22~32KL容)を使用しており、8~10ヶの沓石上に設置している。沓石、タンクとも固定はしていなかった。

- (1) タンクのずれ、沓石のずれによる落下の衝撃で生じたガラスの損傷。特に沓石による底面衝撃のものが被害大。
- (2) 沓石上のずれによる上部歩廊への衝突で生じたガラスの損傷。
- (3) 沓石の破壊によるタンクの落下及び傾斜。
- (4) その他大きな損傷はないものの沓石上でのずれとライナーのずれ。

上記4点が主たる被害であるが、特にステンレスライナー使用のタンクに被害が大きくライナーの素材、及び使用方法に問題があったと思われる。また、形状、強度、使用個数等沓石の使用方法、更には設置台座そのもののあり方の検討が必要であろう。グラスラインニグは衝撃にもろく(特に鋭角方向)また、固定にも困難が伴うので地震多発地帯での採用には一考を要するであろう。

### 2. 製品・半製品の横積みビンの状況(写真2)

保存用、及び熟成中スティルワイン、二次発酵中スパークリングワイン(いずれも横積み状態-通常方式)が落下破損した。特にスパークリングワインは幅4本相当分、高さ約160cmに横積みしたものがほぼ平面状態に崩れ落ち、被害が大きかった。被害の程度は揺れの方向にも大きく影響されるが通常の横積みビンの落下防止法は各列ごとに何らかの支えを付ける以外にないであろう。メッシュコンテナ(800~1,000容)に横積みし、コンテナを多段積みにするなどが被害を少なくする方法として考えられる。

### 3. ダンボール詰製品の状況（写真3）

当所の配送センターでは12本入りダンボール36ヶを木製パレットに3段積みにし、そのパレットをさらに3段積みにして保管してあったが、ダンボール個別で落下したものの、パレットごと落下したものと合わせて約30%が落下破損した。また、落下はしなかったものの最下部のダンボールのほとんどがゆがみつぶされ、詰め替えを余儀なくされた。ダンボールをフィルム等で固定すれば個別落下は防止できたと思われる。また、パレットの多段積みは被害を大きくしたと思われるので、パレットごとの設置棚等が今後必要と思われる。滑りやすい素材のパレットであれば更に被害が大きかったと予想され、木製パレットが結果的には地震に効果的だったといえる。

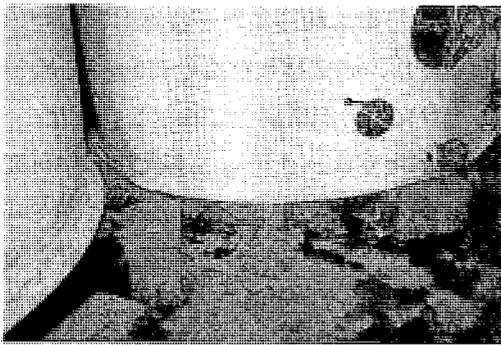


写真 1



写真 2



写真 3

以上、当地の被害状況を報告したがこの報告が関係機関の地震対策の一助になれば幸いである。

今回の地震被害に際しまして、関係各方面の方々からお見舞いと励ましをいただいたことに対し、この誌面を借りまして御礼申し上げます。